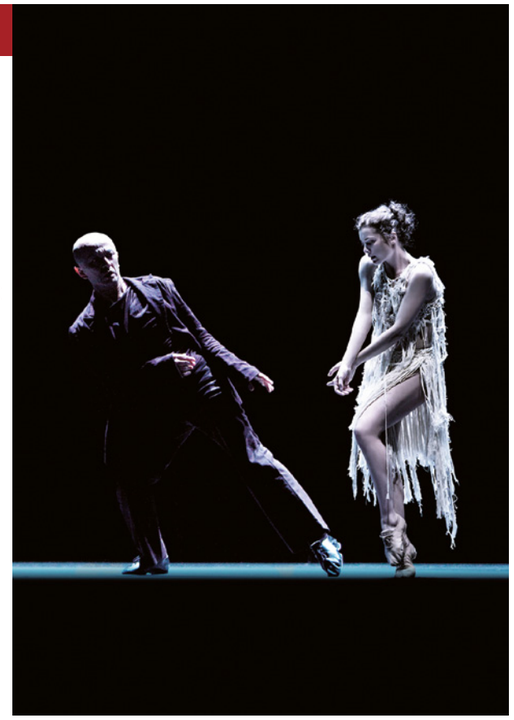
芸劇dance「睡眠–Sleep–」世界初演

勅使川原三郎が描き出す眠りと覚醒の“あわい”

久々にビッグネームの取り合わせだ。
バレエの名花オーレリー・デュポンと、世界の第一線で活躍する勅使川原三郎の初共演が実現する。目も覚めるような新作のタイトルは『睡眠 –Sleep–』。演出、振付の勅使川原に話を聞いた。



これはバレエファンとダンスファン、共に待望の舞台である。バレエの最高峰、パリ・オペラ座バレエ団のエトワールであるオーレリー・デュポンが、世界的に活躍する振付家・ダンサーの勅使川原三郎が主宰するダンスカンパニーKARAS作品に登場するのだ。勅使川原は同バレエ団に作品を委嘱された唯一の日本人振付家だが、昨年にはなんと2作目となる『闇は黒い馬を隠す』を振り付けた。デュポンはこの作品にも出演しており、両者のコミュニケーションもバッチリである。今回の新作『睡眠ーSleepー』について、演出、振付の勅使川原に話を聞いた。

「オーレリーとは『闇は～』のクリエイションの前に、たっぷり一ヶ月間かけてワークショップをやりました。私のメソッドはクラシック・バレエはもちろん、コンテンポラリー・ダンスといわれるものとも違います。たいていのダンスは『様々に磨き抜かれた動きを構成していくもの』といえますが、私のダンスは様々な要素を溶かし、かつ絶えず新しく生まれ続ける動きを見つけていくようなダンスです。カウントも取らないし、身体のコントロールもあえて完璧にはせず、固定した振付の再現でもない。即興というよりも、生物学でいう『自発的再構成（スポンテニアス・リオーガナイゼーション）』に近いものです。オーレリーは『闇は～』を通して、私のメソッドを深く理解してくれています」

バリ・オペラ座バレエ団の来日演目は、ほとんどがクラシック・バレエ作品だ。しかし同団は世界でも屈指のコンテンポラリー作品をレパートリーに持っているバレエ団なのである。今回の作品は、「デュポンがコンテンポラリー作品を日本で踊る、初めての機会」であり、そういう意味でも見逃せない。デュポンは先だってもオペラ座来日公演で多くのクラシックバレエの観客を魅了したが、今回は彼女の未知の領域までをも楽しめそうだ。

さて、気になる作品のタイトルは『睡眠ーSleepー』である。ダンスという「身体を使う芸術」で「睡眠」がテーマとは、なかなか挑戦的ではないか。勅使川原は言う。

「覚醒と睡眠は、同じ身体の違った位相に過ぎませんが、その境目がとても重要です。オブジェクティブ（「物質的」と同時に「客観的」という意味もある）なものを失っていく感覚と、その瞬間を逃さないようにしていきたい。『夢にしがみつくように眠りこける』と書いたりするブルーノ・シュルツ（ポーランドの作家。勅使川原は連続して舞踊作品化している）の小説や、夢を書き留めていたという明恵上人（12世紀の禅僧）の言葉を見ると、言語化することで、埋没しそうな物があらためて捉えられ深まっていくことがわかる。それをダンスでやってみるつもりです」

デュポンと勅使川原はもちろん、いまや彼の作品に欠かせないダンサーとなった佐東利穂子も出演する。また鰐川枝里等の若手メンバーも、このところ成長が著しい。

「オーレリーの豊かな踊りと、質感を自在に変えられる佐東のダンスのデュオもぜひ創りたいですね。この二人はともに『強さ』と『かよわさ』を持っているんですが、それぞれタイプが違う。どうなるか、いまから楽しみです」

さらに勅使川原の舞台では、常に高く評価される照明や音楽、美術も楽しみだ。最高のダンサーたちとどのような舞台世界が実現するのか、刮目して待ちたい。

文：乗越たかお（作家・ヤサぐれ舞踊評論家）

「睡眠 – Sleep –」勅使川原三郎 新作公演

8月14日(木)～17日(日) プレイハウス
構成・振付・美術・照明：勅使川原三郎
出演：オーレリー・デュポン　佐東利穂子　勅使川原三郎　ほか
8月21日(木)愛知県芸術劇場大ホール
8月23日(土)兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホール

主催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）
助成：平成26年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業
共同制作：東京芸術劇場／愛知芸術文化センター愛知県芸術劇場／兵庫県立芸術文化センター／KARAS

© Rihoko Sato

勅使川原三郎
Saburo Teshigawara
ダンサー、演出家、振付家。1985年以降、自身のカンパニーKARASと共に世界中で公演を行い、その独自のダンスメソッドと独創的な作品は世界のアートシーンから高い評価を受けている。自身の作品にとどまらず、パリ・オペラ座バレエ団をはじめ欧州の主要バレエ団への振付や、ヴェニス・フェニーチェ歌劇場他へのオペラ演出も手掛ける。

© Anne Deniau

オーレリー・デュポン
Aurélie Dupont
パリ・オペラ座バレエ団エトワール。15年来エトワールとして、同バレエ団の作品で、多くの観客を魅了し続けてきた。そのレパートリーは古典からコンテンポラリーまで幅広く、2013年秋の勅使川原三郎振付による同団公演「闇は黒い馬を隠す」では、圧倒的な感動をもたらした。2014-15年シーズン「マノン」でパリ・オペラ座バレエ団引退を予定。

詳細はP11へ

「小指の思い出」

野田さんの言葉を演出する準備をしていました。

演出・藤田貴大インタビュー

昨夏に作・演出した『cocoon』で一躍、その名を広めた藤田貴大。
弱冠29歳で野田秀樹の80年代の傑作戯曲を演出し、プレイハウスに進出する。
だが毎月のように作品を発表し、動くほどエネルギーを蓄える演劇モンスターは、それを「挑戦ではない」と言う。

演出家・藤田貴大

『小指の思い出』は青春もの

刺激的な若い才能が集まっている近年の演劇界の中でも、とりわけ目覚ましい躍進を続けている。この1年弱で、作家の川上未映子、歌人の穂村弘、漫画家の今日マチ子、ミュージシャンの原田郁子など、多ジャンルの一流クリエイターと次々に共作。驚きのスピード、量、質で演劇の領域を広げる。それが可能なのは、相手の作品の骨格を一瞬で把握するこの人の能力が、まず大きい。その力で、1983年に夢の遊眠社で上演され、性の越境、飛翔、言葉遊びなど、野田秀樹戯曲の初期の特色が詰まった『小指の思い出』を、青春ものと看破する。

「女性が少年を演じたり、誕生日が大切なモチーフになっていたり、ティーンな感じがすごくする。遊眠社時代の作品ということも含め、野田さんの作品の中では突出して青春もので、マームとジプシー（藤田が主宰する劇団）との共通点を感じます。ただ僕は、自分の作品を単なる青春ものという言葉で片付けてほしくないし、同様に『小指～』にもそういう部分を感じていて、マームの作品をつくる時と同じモラルで、この作品の青春と向き合っていくと思います」

公演情報が解禁になった途端、大きな話題を集めているのがキャスティングだが、注目されるポイントは2つ。ひとつは、勝地涼や松重豊、山中崇ら映像でも幅広く活躍する俳優が、初めて藤田演出と出会うこと。

「勝地君達を指して、商業的な俳優とは言われたくないんです。ポスター撮影で役者さんが並んだ時に、全体として雰囲気がすごく揃っていて、女子受けという意味じゃなく格好よかった。商業的な舞台とそうじゃない舞台の垣根があって、それを無くすことも今回課せられていると思うんですけど、僕がこれまでずっと、やってきたことの地続きにこの企画があると考えているので、そこはまったく心配していません」

もうひとつは、劇作家、演出家、美術家である飴屋法水が俳優として参加、藤田の信頼が厚い青柳いづみとふたりで、かつて野田がひとり二役で演じた人物を演じること。

「飴屋さんとは2012年に一緒に作品をつくっていて（『マームと誰かさん』）、車にはねられる男を演じてもらいました。その作品で青柳は、歩道橋の上からそれを目撃する女子高生役で。芸劇の方から“野田さんの戯曲を演出するとしたら?”と聞かれた時に『小指～』と即答したのは、その創作中に『小指～』の当たり屋のシーンを思い出したことと、ある人間の生まれ変わる前と生まれ変わった後を、飴屋さんと青柳にやってもらうことに意味を感じたということも大きいです」

人の言葉、大きな空間を演出するために

言葉のキレは鋭いが、長期的な視線で仕事に取り組む慎重さも持ち合わせる。『小指～』で初めて自分以外の劇作家が書いた戯曲を演出する準備を、着々と進めていた。

「意外と思われるかもしれませんけど、僕、上の世代の皆さんをリスペクトしていて、野田さんの戯曲をいじるつもりはないし、演出だけを専門にしている新劇系の演出家さんの仕事もすごいと思う。最近続けざまに末映子さんや穂村さんの言葉を扱ったのは、人の言葉を演出することを、短期間で上手くならないといけなかったから。“週刊マームとジプシー”ぐらいの勢いで作品をつくり続けていたのは、失敗したくない仕事がある時に、家にこもって考えるより、たとえ傷付いても人に見せて成長したい。プレイハウスという大きな空間を若い演出家が使えることを、ちゃんと証明したいんです」

取材・文：徳永京子

「小指の思い出」

詳細はP14へ

作：野田秀樹　演出：藤田貴大
9月29日(月)～10月13日(月・祝) プレイハウス
出演：勝地 涼　飴屋法水　青柳いづみ　山崎ルキノ　川崎ゆり子
伊東茄那　小泉まき　石井亮介　斎藤章子　中島広隆／
宮崎吐夢　山内健司　山中 崇／松重 豊
料金：S席 5,500円　A席 4,500円　ほか［全席指定・税込］
チケット一般発売：7月26日(土)

主催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）
東京都／東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）
助成：平成26年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

＜野田秀樹作品セット券＞

「小指の思い出」と、「半神」のお得なセット券を一般発売に先がけて先行販売いたします。
料金：9,000円 1名様分
（全席指定・税込・S席・枚数限定・前売のみ）
セット券発売開始：7月19日(土)
取扱い：東京芸術劇場ボックスオフィス

東京芸術劇場×明洞芸術劇場 国際共同制作

韓国公演あり詳細はP19へ

「半神」東京公演

原作・脚本：萩尾望都　脚本・演出：野田秀樹
10月24日(金)～10月31日(金)プレイハウス
料金：S席 5,000円　A席 4,000円
S席ペア券 8,500円/2枚　ほか［全席指定・税込］
チケット一般発売：8月2日(土)

東京公演 主催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）
東京都／東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）
共催：明洞芸術劇場／独立行政法人国際交流基金　企画協力：NODA・MAP　株式会社小学館